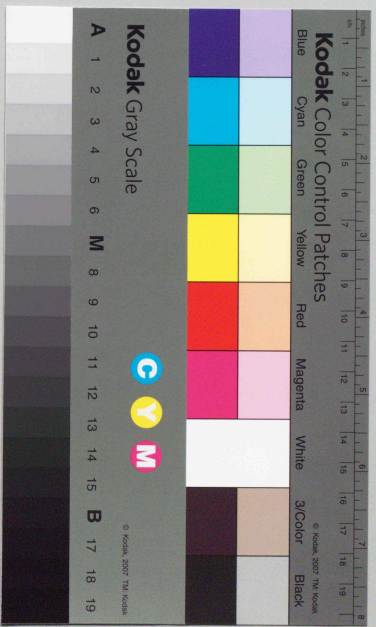


夔州縣
編纂
史係
之印

三河國鳳來寺畧緣起

182
ホ
2



三河國煙巖山鳳來寺畧縁起

抑當山抑當蕭樂蕭樂仙人白鳳元年の開基暨王示現
乃靈峯乃靈峯一々文武天皇勅願の勝地あり然る
小本尊は冥應衆生機感の佛徳を天より施し
地より布布繡素信繡素信を凝凝一男女歩を運運あり巨
益無窮益無窮すましく恰恰と日の天より麗麗一きか如く
昭々昭々として能く世に知る處あり然とくとも
盤觴遠くして乱世軍士の為為に犯さず或ハ



A182
ホ
ス

往古回祿乃為災つひに星移玉霜變ついで
更絶つひにを經ついで廢すたた城あき與すて人も猶なほ
すし波々なみと此こゝ多おほき中な間ま々な奇き蹟せきの留とどまるを
見みく古いにしへき慕あこがひ今いまを問とふ人ひとをみて見み安やすみ
志こころ多おほんか為なる聊いささ條目じょうめを掲かかげる其その大おほ畧りやくを引ひく
一ひと開山かいざん仙人せんじん八山はつざん城じやう於お國くに二葉にようの里さと乃すなはち人ひとをみて父ちちを
高たか鴨鴨の都みやこ岐ぎ磨まといふ
欽きん明めい帝てい於お曆れき三十二年さんじふにねん庚かう寅とらり生なま

齊せい明めい帝ていの嘉か運うん小せう百濟ひやくさい國くにを渡わたり大だい法ぽうを傳つたへ
歸かへ朝あそして白しろ鳳ほう元げん壬にん申しん此こゝ羊やう小せう必かなら峯かみ入いり經へ行ゆ
清せい和わ天てん皇かう元げん慶けい二に戊ご戌しゆ乃すなはち年とし三さん百ひやく九く歳さい入いり入い定ぢやう
志こころ

一ひと藥やく師し堂だうに執とり當あたる相あひまの大だい樹じゆ七しち本ぼんあり
天てん童どう乃すなはち礼らい拜はいをみて其その頌しょう文ぶん小せう

相あひま木き靈れい王わう藥やく師し佛ぶつ

一ひと步ふ一ひと見けん諸しよ羣ぐん生せい

現世安穩得長壽

後生無量壽佛國

と唱^{なむ}為^なり我見^{われみ}る相木^{さうもく}即^{すなはち}ち藥師^{やくし}の全体^{ぜんたい}あり
事^{こと}を知^しり仙人^{せんじん}相木^{さうもく}一幹^{いつかん}を伐^ひ採^とり本尊^{ほんぞん}を
彫^ひ刻^くして巖^{いわ}工^{こう}に安置^{あんじ}しり今崇^{いまたか}め奉^{たご}る
所^{ところ}乃^{すなはち}尊像^{そんざう}是^{こゝに}なり

一大寶元辛丑元年 文武天皇御惱海

夢中の靈瑞^{れいずい}り依^より同年五月草鹿^{くさしか}破^{やぶ}公宣^{こうせん}
明^{あきら}を勅^つ使^しとして仙人^{せんじん}を召^より入^いり編^あ命^{めい}

辞^{ことば}まじり所^{ところ}なく即^{すなはち}ち藥師^{やくし}の本誓^{ほんせい}り住^{すま}り

加持^{かぢ}を奉^{たご}るまじりハ御惱^{ごなう}忽^{たちまち}ち安泰^{あんたい}なりせりハ

是^{こゝに}小依^{せうい}り御感^{ごかん}り餘^{あま}り仙人^{せんじん}の意願^{いけん}を勅^つ問^{もん}

有^ありまじり願^{ねが}ひハ國家^{こくが}安全^{あんぜん}衆病^{しゆびやう}悉^{ことごと}除^{のぞ}のたせ

伽藍^{がらん}を創立^{くわんりつ}し尊像^{そんざう}を安置^{あんじ}せん是^{こゝに}元

々^{ごと}我大願^{わがたいがん}なりと奏^{そう}し々^{ごと}色^{いろ}ハ

天皇^{てんかう}勅^つ願^{ねが}ひし同^{どう}三癸卯^{さんみづの}の年^{とし}藥師^{やくし}堂^{だう}を

御^ご建立^{くわんりつ}しりし

一三重の塔ハ右大将頼朝卿乃御建立なり
阿弥陀堂ハ同卿ハ家士藤九郎盛長の建立
なり堂社都々二十一宇有り

一閑山堂ハ本堂の西北小當里ニ飛驒乃匠
所作まかりなり也

一山號を煙巖山と稱すとは藥師堂より
西北よりなりして仙人所住の岩窟あり常
修ト云ふ所乃護摩の煙ニ巖に止る由人

其處を煙巖山と名く

一院號を勝岳院と云ふ事ハ藥師堂より西北
に當り仙人入定の窟有り深信の者間々振
鈴乃響音を聞とり靈妙殊勝なり小付
其處を勝岳と名きり也

一寺號を鳳來寺と云ふ仙人鳳來寺
往來したまふ由ハ鳳來寺と云ふ初號
被賜也

一仙人山に入たるの始め青赤黒れ三兔有る
此山をトす仙人鬼形を逃けて曰く汝等
滅度をば當來の苦を抜き安樂あり
先んと懇小告多人の謹く諸なる隨仕す
仙人入定の肘三鬼の觸體を藥師堂乃石礎
跡下埋先中のとつ今以て毎年正月三日
十四日近里の民族集りて鬼魂追福のた先
古風乃祭事なり

一藥師堂より西小當り尼の行道とらみたり或時
淨行尼といふ者仙人を尋來るに仙人思らく
女人ハ汚穢の身なり法器小なりす此近け
たより尼高岩小登りて遠見すれども見
え欣心し噴嚏を含み岩峭は尿水を下に
小岩忽ちふけり谷は落たり其谷を比立
尼谷といひ破裂して兩方小聳へ立ち岩
坂尼の行道といふ

一 藥師堂より東より行ける行者歸るといふ
所より役の行者關山仙人を尋登るに峻巖
峻難として登る可くは六歸りて間道より
攀ち躋り仙人小逢りて行者歸るといふ
今ハ往來此通路と云々ゆへ行者越るといふ
一 奥の院ハ本堂より西の方羊腸ゆる峻路
登陟してゆる絶頂を白山の峯といふ又
遙は尾勢の海上を見渡すゆへ望海頂とも

ゆへ岩上に十一面觀音不動明王安置し是
を關山の護佛藍神といふ

一 奥の院より到る道小六本の太杉有り古ハ
七本ありて茂仙人一本を伐り採り本尊を
彫刻しゆへ故に今ハ六本相といふ幾千年
を經しや一本の周圍四丈あり

一 藥師堂より西よりゆる岩嶂の半腹より
仙人加持の秘水有り是を隱水と名く

一千壽が嶺万壽が坂より入り五臺山の長秋
仙此處小来りて開山仙人は長壽の法を授
くせぬ

一 藥師堂より乾小當より仙人瑠璃の藥壺を
収り入山有り是は瑠璃山と名く

一 藥師堂より南小當より滝川より流河より
其末流小猿橋より所あり勅使公宜卿この
峯小入り入時滝川の流水小鈴并

數多乃獼猴集りて枯木を以て橋梁
勅使其處を越たすゆへは猿橋と有り
一 樓門は掲る所の扁額ハ

光明皇后の御真翰ありと有り

一 東照宮御由緒の支ハ御慈父贈大納言廣忠
御嗣子のなきに我歎きゆ以北の方諸共
當山藥師堂へ御參籠海より御若君御誕
生の初念慙歎小有りこれハ一夜不思議乃

靈夢を蒙りて丈夫なり北の方御身たるに
十有二月を經て天文十一年寅年十二月二十
六日家康公御誕生あり勢りし是實なり
永男女得男女の本誓空一か夜畏くを
真達羅大將神托胎變作して真相を現し
りしより女一た亥八日光山縁起より
尔しを以て来御信仰よく渥く舊領
小新加りて寺領千三百五十石乃御判を

寄りの
右の外支跡此来由多しとて少少便概
を採摛して書記して畢

